



学校レポーター's コラム

「異文化にふれることで自らの文化を見つめ直す」

川根高等学校 2年 杉山皓亮



私たち川根高校2年生は、1月21日から25日までタイのバンコクへ海外研修に行ってきました。海外研修には、1つ大きな目的があると私は考えています。それは「異文化にふれることで自らの文化を見つめなおす」ということです。

私は今回の修学研修を含め、3回海外に行ったことがあります。しかし、今回の研修ほど自らの文化を見つめ直す旅行はありませんでした。

それを強く感じ始めたのは、研修2日目の全体研修からです。私たちは世界的にも有名な、ワットアルン、ワットポー、ワットプラケオという寺院に行きました。日中は36度を超える中、それぞれの素晴らしい歴史的建造物に、皆、目を光らせていました。日本では決して感じることのできない素晴らしい体験をさせてもらいました。

その途中、私たちは路上で売っている水を買いました。私は今まで「水を買う」という行為をしたことがありません。それは、ほとんどの場所において無料で飲めるものだと考えていたからです。しかし、タイでは違います。レストランで食事を取るときでさえお金を払って水を飲むのです。

また、路上販売をする人の多くが靴を履いていなかったり、街のいたるところで野良犬を見かけたりと、日本との環境面の違いに驚きました。

研修3日目はバンコク市内にある「シユリアユタヤスクール」と学校交流を行いました。川根高校とは違い、生徒数がとても多く圧倒されました。しかし、日本語を話せる生徒が

いたため、すぐに仲良くなり、とても楽しい時間を過ごすことができました。また、お互いの伝統芸能を披露し合うことで、より日本とタイの関係が親密になった気がします。

4日目は、HR研修でそれぞれのコースに分かれて行動しました。私はアユタヤ遺跡のコースで、5カ所の観光地を見学しました。その中で私が1番印象に残っているのは、日本人街を訪れたことです。16世紀頃から、徳川幕府はアユタヤ王朝と貿易をするために日本人を多く派遣しました。その多くの日本人の住む場所として、アユタヤ王朝から与えられた地が日本人街です。

そこには、静岡県出身の山田長政の像がありました。山田長政は日本人街のリーダーで、アユタヤ王朝のために全霊を尽くした人です。その像を見たとき、日本人として、また静岡県民として、とても誇らしい気持ちになりました。

そして、「自分は周りの人間に何ができるのだろう」と考えさせられました。

私は今回の研修で、日本で今当たり前になっていること、できていないことが、どれほど幸せなことか身をもって体験することができました。そして、自らの文化を見つめなおすとともに、自分の視野を広げることができました。このような体験は、決して日本国内でできることではないと思います。一歩世界へ踏み出し、自分で体験することで、自分の価値観がガラリと変わると思います。私はこの研修で得た貴重な経験を無駄にすることなく今後の生活に生かしていきます。